

救急豆知識

—「外傷」パートⅡ—

家庭で出来る応急手当

※外傷の応急手当

前回に続き、一般的に起こりうる外傷の応急手当の仕方をまとめてみました。みなさんの参考になればと思います。

●打 撲(うちみ)

打撲は、普通うちみとも呼ばれます。日常生活でよく見られる机やイスに手や足をぶついたり、車や家のドアに挟まれた時の局所的にはれる程度の軽いものから、高所から転落して全身を打ったりする重症のものまで、広範囲にわたります。

外傷(キズ)はなく、その部分が熱をもってはれて痛み、時折、紫色の皮下出血をみる場合もあります。特に重症の場合は、皮下組織ばかりではなく、筋肉、骨まで損傷を受けることもあります。手足以外の打撲では、内臓にまで損傷のおよぶ事もありますので判断には十分な注意と治療が必要になります。

軽い打撲の場合には、氷や水で患部を冷やしたり、冷湿布をしておくだけで治る事が多いのですが激痛をとまなう場合や重症と思われる場合には、必ず病院での診察が必要です。



応急処置

1. 手足の場合の打撲は、最初に氷で冷やしたり、冷たい布等をあてて患部の固定をします。また時間が経過して痛みが激しくなったりはれが増すようなら病院に行く必要があります。

2. 頭の場合は、意識の有る無しで症状の軽症、重症を分けます。

意識がはっきりしていればまず一安心ですが、あとで頭痛や吐き気が起こるようなら要注意です。病院で診察して下さい。

打撲直後、意識がなかったり頭痛や吐き気のひどい時はすぐに救急車等で病院に行き診察してください。



●脱 臼

脱臼とは体の関節(肩、ひじ、指関節等)がはずれてしまうことで、特に運動時(柔道、ラグビー、バレーボール等)の際に起こり、子供の手を取って遊んでいる時などでも起こります。

応急処置

1. 無理に戻さない

2. 包帯、三角巾、ネクタイ等を利用し患部の固定をして病院等で診察してください。